鷹南学園三鷹市立中原小学校　令和８年度　【２年生】　授業改善推進プラン

	R7授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
国語	本の紹介や文字の丁寧さへの指導、話す・聞く・書く活動の充実により、自分の思いを文で表したり読書を楽しんだりする姿が広がった。一方で、正しい鉛筆の持ち方やとめ・はね・はらいの確実な定着、相手に分かりやすく順序立てて伝える表現力には個人差が残る。	物語や説明文の内容理解への興味・関心は高いが、文章の構成を理解して読み取ったり、自分で文章を組み立てたりする力には課題がある。また、新出漢字ノートで反復練習を行っているものの確実な定着が難しい。さらに、友達の意見を聞いて自分の考えを広げたり深めたりできる児童が少ない。	「はじめ・なか・おわり」の基本的な文型を示し、文章の骨組みを意識して考えを伝えられるよう指導する。国語に限らず日常的に既習漢字を使う習慣を徹底する。各教科を通じて話し合い指導を徹底し、発言の文型定着とともに、相手を見て自分と友達の意見の共通点や相違点を見つけながら聞く力を育てる。
算数	ブロック等の具体物やICTの活用、ペアでの伝え合いにより、数の構成や問題場面のイメージ化・理解が深まった。しかし、具体物操作から立式・計算への結び付けの定着や、文章題を正しく読み取って思考・説明する力には依然として個人差が見られる。	計算チャレンジの効果により、計算の正確さや速さの定着が進み、前回の記録と比べて自己の現状を見つめる姿が見られる。しかし、文章を正しく読み取って問題場面をイメージし、自分の考えを図や言葉に表すことに難しさがある。また、自分の考えに自信がもてず、全体での発表に消極的な児童が依然としている。	ブロック等の具体物やICT機器の活用を継続し、問題場面を視覚的に捉える。ペアでの伝え合いや対話的な活動を通して、解決方法を比較・検討し、よりよい解き方を見出す指導を行う。授業終末に学習感想を書く時間を確保し、何を学んだかを自ら整理して自己の成長を実感できるようにする。
社会			
理科			
音楽	全体やペアでのリズム打ち、音楽に合わせて体を動かす活動を繰り返したことで、拍に乗って楽しく表現する感覚が育った。一方で、リズム記号を正しく読み取って演奏することや、曲の雰囲気を丁寧に感じ取って歌や動きに生かす力には課題が残る。	歌唱やリズム打ち、鍵盤ハーモニカの演奏など、音楽活動全般に楽しく取り組んでいる。一方で、曲想に合った歌い方や高い声をきれいに響かせること、タンギングを用いて柔らかい音色で鍵盤ハーモニカを演奏することには個人差が大きい。また、音符の名称や長さを正しく理解し表現できない児童がいる。	聴いた感じを言葉で表す活動を通して、旋律や音色を聴き取り曲想に合った歌い方や演奏の仕方を指導する。リズム譜を見ながらリズム打ちをする活動を毎時間取り入れ、体を動かして拍に乗る楽しさを味わいながら音符の長さを実感する。ペア学習を取り入れ、互いの音の良さに気付く。
家庭科			
図画工作	手順の分かりやすい提示や制作途中で認め合う場を設けたことで、見通しをもって最後まで粘り強く仕上げようとする意欲が高まった。一方で、はさみ等の用具の正しい扱いの定着や、自らの思いを豊かに膨らませて工夫して表す力には個人差がある。	めあてに対してのびのびと楽しそうに取り組み、表現への関心や意欲の高い児童が多い。一方で、はさみやのり、絵の具や絵筆などの用具の扱いに課題が見られる児童がいる。特にカッターナイフや版画等の新しい用具の取り扱いでは安全面での注意が必要であり、手先の器用さや作業進度にも個人差が見られる。	制作前に全体でイメージを共有した上で、児童一人ひとりが自分なりの思いを膨らませてから取り組めるようにする。制作途中で友達の作品を見る時間を意図的に設け、多様な発想や工夫を参考にする。道具の正しい使い方や安全指導を徹底し、安心して作業に没頭できる学習環境を整える。
生活	つぶやきへの共感や自分で活動を選択する導入の工夫により、「やってみたい」という思いをもち主体的に探究する態度が育った。しかし、活動の中で気付いたことや自分の願いを明確にし、友達に向けて言葉や絵で分かりやすく発表・表現する力には継続支援が必要である。	地域に関わる学習や野菜を育てる活動に関心をもち、育てている野菜に親しみをもつなど主体的に取り組んでいる。しかし、活動を通して気付いたことや次にやりたいことを振り返り、次の活動へつなげていく場面において、自分の気付きや思いを言葉や絵にまとめ、全体の中で自信をもって発表できる児童が少ない。	活動を振り返り、気付いたことや次の願いをワークシートに書くことで、自らの学びや思いを理解する。児童が書いた内容や発言をクラス全体で共有・価値付けし、次の探究活動へとつなげていく。児童のつぶやきや気付きを大切に拾い上げ、互いに認め合う場を設けて表現への自信を育てる。
体育	易しい場の設定や柔らかい用具の使用、映像の活用により、苦手意識をもつ児童も安心して意欲的に運動遊びへ参加できるようになった。一方で、基本的な体の動かし方やルールの理解・共有、児童間における運動経験・技能差の解消が今後の課題である。	学習カードや多様な場の設定により、自分たちで技に挑戦する姿が見られる。しかし、苦手意識のある動きに対しては消極的になり、活動に取り組めない児童がいる。また、基礎的な筋力や持久力が低い児童が見られるとともに、運動経験や技能の差、友達と互いの良い動きを認め合う意識に課題が残る。	運動量を確保するため、説明や指示、準備の時間を短縮し、絵や図、動画を活用して動きを視覚的に理解する。安全に配慮しつつ、活動の中で見られた良い動きを全体で共有・称賛する場と時間を確保する。振り返りカードを活用して個々の様子を見取り、つまずきに応じた適切な声かけと支援を行う。
外国語			
道徳	具体的な生活場面を取り上げ振り返りを位置付けたことで、決まりの大切さや相手を思いやる気持ちへの意識が高まった。しかし、友達の意見を聞いて自分の考えを深めたり、学んだ規範意識を実際の学校生活の中で主体的な行動として実践したりする力には課題が残る。	資料から登場人物の気持ちを想像して考えることはできている。しかし、自分の意見を言って満足してしまい、友達の意見を聞いて自分との共通点や相違点を考えようとする姿勢にはまだ課題がある。また、話し合いで深めた決まりや思いやりの大切さを、実際の日常生活の中で実践的な行動に移す力に弱さが見られる。	児童の身近な日常生活の場面を導入に用い、課題を自分事として捉え日常の行動を見直すきっかけをつくる。自分の考えをもたせた後、周りの友達と考えを交流する場を意図的に設定する。友達の意見を聞いてどう感じたかを問いかけ、発言をつなぎながら児童同士で対話が深まる授業を展開する。